(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-100623
(P2017-100623A)
(43)公開日　平成29年6月8日(2017.6.8)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B60N 2/58	(2006.01)	B60N	2/58		3B084
B60N 3/00	(2006.01)	B60N	3/00	Z	3B087
A47C 31/11	(2006.01)	A47C	31/11	E	3B088
A47C 7/62	(2006.01)	A47C	7/62	A	

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 5 頁）

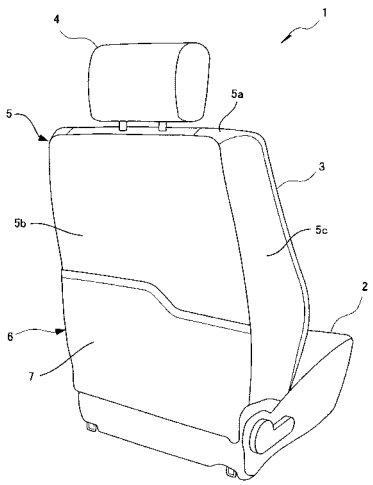
(21)出願番号　特願2015-236711 (P2015-236711)
(22)出願日　平成27年12月3日 (2015.12.3)

(71)出願人　000133098
株式会社タチエス
東京都昭島市松原町３丁目３番７号
(74)代理人　110002505
特許業務法人航栄特許事務所
(74)代理人　100115107
弁理士　高松　猛
(74)代理人　100151194
弁理士　尾澤　俊之
(72)発明者　諸井　康一
東京都昭島市松原町３丁目３番７号　株式会社タチエス内

Ｆターム(参考)　3B084 JA04　JB06
3B087 DE03　DE10
3B088 CA03

(54)【発明の名称】シートカバーおよび車両用シート

(57)【要約】
【課題】芯材に依らずポケット開口の形状を保つことが可能なシートカバー及び車両用シートを提供する。
【解決手段】車両用シート１のシートカバー５は、ポケット６が設けられ、ポケット６は、シートカバー５を形成する表皮材に袋状に縫着され、表皮材との間にポケット開口６ａを形成する表材７と、表材７のポケット開口６ａに沿う縁部にあてがわれた、表材７に比べて剛性の高い裏材９と、を備える。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
ポケットが設けられたシートカバーであって、
前記ポケットは、
シートカバーを形成する表皮材に袋状に縫着され、前記表皮材との間にポケット開口を形成する表材と、
前記表材の前記ポケット開口に沿う縁部にあてがわれた、前記表材に比べて剛性の高い裏材と、
を備えるシートカバー。
【請求項２】
請求項１記載のシートカバーであって、
前記裏材は、前記表材に補強材が積層されたものであるシートカバー。
【請求項３】
請求項１記載のシートカバーであって、
前記表材及び前記裏材はワディングをそれぞれ含み、
前記裏材のワディングは、前記表材のワディングに比べて高密度であるシートカバー。
【請求項４】
請求項１から３のいずれか一項記載のシートカバーであって、
前記ポケット開口は非直線状に延びているシートカバー。
【請求項５】
請求項１から４のいずれか一項記載のシートカバーによって包被された車両用シート。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、シートカバーおよび車両用シートに関する。
【背景技術】
【０００２】
特許文献１に記載された車両用シートは、シートバックの背面側にポケットを備える。ポケットは、シートバックの背面を覆うシートカバーの表皮材と、シートカバーの表皮材に袋状に縫着された表材とで構成されている。
【０００３】
表材とシートカバーの表皮材との間には、シートバックの幅方向に一端側から他端側に向けて直線状に延びるポケット開口が形成されている。表材には、表材の縁部が折り返されてポケット開口に沿って延びる筒部が設けられており、筒部の内部には、ポケット開口を補強する芯材が挿入されている。芯材としては、典型的には樹脂板や平ゴム紐などが用いられる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００１－３４６６５６号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
特許文献１に記載された車両用シートのシートカバーでは、ポケット開口を補強してポケット開口の形状の崩れを抑制するための芯材が必要であり、ポケット開口に沿って延びる筒部に芯材を挿入する手間も要する。
【０００６】
さらに、特許文献１に記載された車両用シートのシートカバーでは、ポケット開口が直線状に延びて形成されているが、意匠の観点からポケット開口が非直線状に延びて形成される場合に、芯材が挿入される筒部もまた非直線状となって筒部への芯材の挿入が困難と

なる。
【０００７】
本発明は、上述した事情に鑑みなされたものであり、芯材に依らずポケット開口の形状を保つことが可能なシートカバー及び車両用シートを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
本発明の一態様のシートカバーは、ポケットが設けられたシートカバーであって、前記ポケットは、シートカバーを形成する表皮材に袋状に縫着され、前記表皮材との間にポケット開口を形成する表材と、前記表材の前記ポケット開口に沿う縁部にあてがわれた、前記表材に比べて剛性の高い裏材と、を備える。
【０００９】
また、本発明の一態様の車両用シートは、前記シートカバーによって包被されている。
【発明の効果】
【００１０】
本発明によれば、芯材に依らずポケット開口の形状を保つことが可能なシートカバー及び車両用シートを提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】本発明の実施形態を説明するための、シートカバー及び車両用シートの一例の構成を示す斜視図である。
【図２】図１の車両用シートのシートバックを包被するシートカバーの背面図である。
【図３】図２のシートカバーのポケットの構成を示す断面図である。
【図４】ポケット開口の形状の他の例を示す図である。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
図１は、本発明の実施形態を説明するための、車両用シートの一例の構成を示す斜視図、図２は図１の車両用シートのシートバックを包被するシートカバーの背面図、図３は図２のシートカバーのポケットの構成を示す断面図である。
【００１３】
図１に示す車両用シート１は、座面部分を構成するシートクッション２と、背もたれ部分を構成するシートバック３と、シートに着席した乗員の頭部を支持するヘッドレスト４とを備えている。
【００１４】
シートクッション２やシートバック３やヘッドレスト４は、骨格をなすフレーム及びフレームに支持されるクッションパッドがシートカバーによって包被されてそれぞれ構成されている。
【００１５】
シートカバーは、典型的には、表皮材からなる複数のピースが袋状に縫製されて形成される。表皮材としては、皮革（天然皮革、合成皮革）や布帛（織物、編物、不織布）などを例示でき、各ピースが覆うシートの部位に応じて適宜選択される。
【００１６】
シートバック３を包被するシートカバー５は、シートバック３の前面を覆う前面ピース５ａ、背面を覆う背面ピース５ｂ、一方の側面を覆う側面ピース５ｃ及び他方の側面を覆う側面ピースを含んで構成されている。
【００１７】
そして、シートバック３を包被するシートカバー５にはポケット６が設けられている。図示の例では、ポケット６はシートバック３の背面に配置されている。なお、ポケット６は、例えばシートバック３の側面などに配置されていてもよく、また、シートクッション２やヘッドレスト４に配置することもできる。
【００１８】

ポケット６は、シートカバー５の背面ピース５ｂと、背面ピース５ｂに縫着された表材７とで構成されている。表材７の上縁を除く縁が背面ピース５ｂに縫い合わされて、表材７は背面ピース５ｂに袋状に縫着されている。

【００１９】

表材７の上縁と背面ピース５ｂとの間には、シートバック３の幅方向に一端側から他端側に向けて延びるポケット開口６ａが形成されている。図示の例では、表材７の上縁は、シートバック３の幅方向の一端側と他端側とで高さが異なる段差状（非直線状）に形成されており、ポケット開口６ａもまた段差状に形成されている。

【００２０】

表材７のポケット開口６ａに沿う上縁部には、シートバック３の幅方向の一端側から他端側に亘って裏材９があてがわれている。裏材９は、ポケット開口６ａの形状に合わせて予め裁断されて表材７の上縁部に重ねられ、表材７に縫着され、そして、表材７と共に背面ピース５ｂに縫い合わされている。

【００２１】

裏材９は表材７よりも剛性の高い材料によって形成されており、裏材９によってポケット開口６ａが補強されている。

【００２２】

図示の例では、表材７は、皮革や布帛などの表皮材７ａの裏面にスラブウレタンなどの発泡体からなるワディング７ｂが接着されてなる。裏材９もまた、皮革や布帛など表皮材９ａの裏面にワディング９ｂが接着され、さらに補強材９ｃが積層されることによって表材７よりも剛性が高められている。補強材９ｃとしてはニードルパンチなどの不織布を例示することができる。

【００２３】

なお、表材７がワディング７ｂを含み、裏材９もまたワディング９ｂを含む図示の例においては、裏材９に補強材９ｃを追加することに替えて、裏材９のワディング９ｂを表材７のワディング７ｂよりも高密度（低発泡）とすることにより、裏材９の剛性を高めるようにしてもよい。

【００２４】

表材７よりも剛性の高い裏材９を表材７の上縁部にあてがってポケット開口６ａを補強することにより、芯材に依らずにポケット開口６ａの形状を保つことが可能となる。そして、芯材が不要となり、芯材を挿入する手間も不要となることから、シートカバー５の製造コストを低減することもできる。さらに、芯材の挿入が不要となるのでポケット開口６ａの形状の自由度が高まり、ポケット開口６ａの形状として図示の例のような非直線状に延びる形状を採用することができ、意匠性を高めることができる。

【００２５】

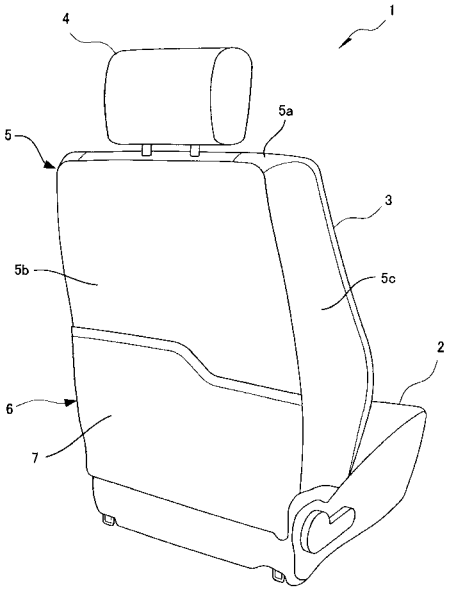
なお、ポケット開口６ａは直線状に延びて形成されてもよく、また、非直線状に延びて形成される場合に、上述した段差状に限定されるものではなく、例えば図４に示すような全体が湾曲した曲線状などであってもよく、任意の形状とすることができる。

【符号の説明】

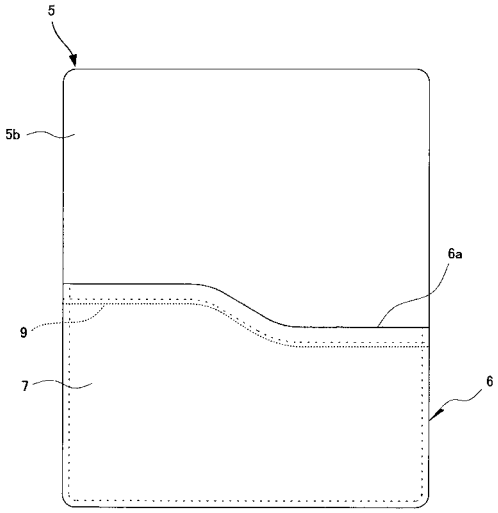
【００２６】

１　車両用シート
２　シートクッション
３　シートバック
４　ヘッドレスト
５　シートカバー
６　ポケット
６ａ　ポケット開口
７　表材
９　裏材

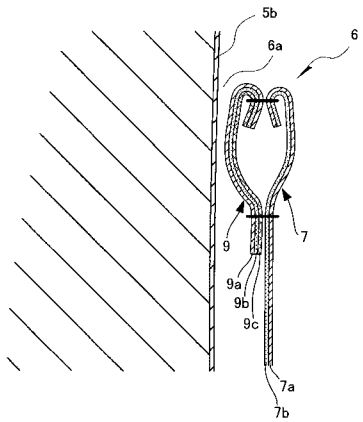
【図１】



【図２】



【図３】



【図４】

